指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

施設所管課	こども未来部子育て支援給付課

施　設　名	母と子の家しらゆり
指定管理者	社会福祉法人　湘南学園
指定期間	令和4年4月1日　～　令和9年3月31日
指定管理料	年額50，837，000円　（令和7年度）　（総額246，925，000円）
設置目的	母子生活支援施設の運営
業務内容	母子家庭の母と子を保護すると共に、自立の促進のためにその生活や就労を支援し、退所後も相談や援助を行い、子育ての支援をする。

所管課総合評価	Ⅰ～Ⅳによる総合評価	総合評価コメント
	B（良好）	今年度は、入所者が減少する中、課題を多く抱える利用者への対応が特に求められました。今後ますます支援ニーズの多様化・複雑化が日常的になることが想定されます。一つひとつの経験を活かし、職員間で問題を共有し、児童福祉施設としての課題や強みを活かし、母子が安心して地域で暮らせるための支援が行えるよう期待します。

	評価項目及び評価の視点	確認資料	自己評価	自己評価事由	所管課評価	所管課評価事由
Ⅰ実施体制	**施設の設置目的の達成** □ 施設の設置目的を十分に理解し、それを踏まえ管理運営に努めていたか。	条例、仕様書、事業計画書、事業報告書	B（良好）	適正	B（良好）	設置目的に沿った管理運営に努めていた
	職員の勤務実績・配置状況・労働条件 □ 事業計画書に沿った職員を配置していたか。 □ 必要な資格、経験を有する職員を確保していたか。 □ 出勤状況、勤務形態等、労働条件が適正であったか。 □ 障害者の雇用促進に努めていたか。	仕様書、事業計画書、日報、勤務表、資格証、実地調査、労働条件モニタリング	B（良好）	保育士の入れ替わりはあったものの、欠員を生じさせることなく必要な人員を確保することができた。また、日中支援ニーズの高まりを踏まえ、夜間宿直員を増員し、支援員が日中業務を担える体制づくりを行った。	B（良好）	保育士の入退職はあったものの、欠員が生じることなく人員を確保できていたが、非常勤職員の定着は依然課題となっている。宿直員を増員し、支援員の夜間勤務数が減少、日中の支援業務に専念できる体制が整った。
	職員の研修 □ 事業計画書に基づき、業務に必要な研修、教育が実施できたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、研修資料等	B（良好）	年間を通して施設内外の研修に積極的に参加し、専門性の向上を図った。また、近母協研究大会ではホスト県としての役割を担い、円滑な運営に寄与した。	B（良好）	近畿母子生活支援施設研究大会ではホスト県としての役割を担い、円滑な運営に寄与した。
	法令等遵守 □ 関係法令、条例等を遵守していたか。	仕様書、関係法令等、実地調査	B（良好）	適正	B（良好）	遵守していた
	個人情報保護・情報公開 □ 個人情報・情報公開の取り扱いについて、協定書に基づき適切に行っていたか。	仕様書、協定書、管理方法（実地調査）	B（良好）	適正	B（良好）	適正
	管理記録 □ 業務日誌等を適切に整備、保管していたか。 □ 点検結果や修繕履歴等を適切に記録・保管していたか	日報、点検結果等関係書類、実地調査	B（良好）	基本クラウドデータ管理としている。紙媒体記録は鍵付きのキャビネットに保管している	B（良好）	適正に管理できていた
	連絡体制 □ 市と指定管理者間で十分に連絡、調整を行っていたか □ 事業計画書、月報、事業報告書、その他報告書等の提出や内容が適正であったか。	仕様書、事業計画書、事業報告書等関係書類	B（良好）	突発的なことがあれば即時報告で、また、仕様書に基づき、月次や期別の報告を滞りなく行っている	B（良好）	毎月事業報告書により、施設管理及入所者の処遇状況について報告を受けている。施設職員の入退職や突発的な事案に対しては随時報告を行われている。
	緊急時対応 □ 事故・災害等の緊急時の連絡体制が確保されていたか □ 緊急時等のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行うなど、職員への指導徹底を図っていたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、緊急時対応マニュアル	B（良好）	月1回の避難訓練を確実に実施するとともに、有事対応に関する周知を行い、防災意識の向上に努めている	B（良好）	月1回の避難訓練を確実に実施されている。大規模災害発生の際には災害発生状況の有無等の報告を受けている。
	《Ⅰ総　括》　業務の実施体制に関する評価【標準8項目／当施設8項目】		B（良好）		B（良好）	

指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

	評価項目及び評価の視点	確認資料	自己評価	自己評価事由	所管課評価	所管課評価事由
Ⅱ内容・水準	**施設管理** □ 利用者の安全な生活に向けた施設管理を行っているか □ 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じていたか。	条例、規則、仕様書、事業計画書、日報	B（良好）	適正	B（良好）	安全計画を策定し、対策を講じている。
	利用者対応 □ 外来者の接客等、職員の応対は迅速かつ適切か。 □ 利用者の人権擁護に配慮した支援が行えているか。 □ 利用者に対して適切な支援を行っているか。 □ 利用者に対して設備、備品等を適切に提供しているか。 □ 個別支援計画を適切な時期に、適切に立てているか。	業務マニュアル、意見・苦情等受付簿、アンケート、実地調査	B（良好）	自立支援計画については、丁寧な策定を行うため時間を要する場合もあるが、策定時期にかかわらず、利用者の状況に応じた支援計画を立てるよう努めている	B（良好）	人権擁護に配慮した支援が行われている。自立支援面談及び支援計画の作成は、概ね予定通り実施できている。支援計画の記載内容や様式の見直しを行い、入所者の状況に応じた支援ができるよう、支援の質の向上及び支援業務の標準化に向け取り組んでいる。
	業務運営（全体） □ 事業計画書に則し、事業を計画どおり実施したか。 □ 利用促進に向け、積極的に取り組んでいるか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、実地調査	B（良好）	適正	B（良好）	施設の特性上、利用促進を積極的に行うことは難しいが、事業計画は概ね事業計画通り実施できていた。
	自主事業運営 □ 自主事業計画書に則し、事業を計画どおり実施したか □ 利用者の満足度を高める工夫がされたか。 □ 事業の実施により市民サービスの向上に効果があった □ 施設の設置目的に沿った自主事業を実施したか。	仕様書、自主事業計画書、自主事業報告書、実地調査	B（良好）	しらゆり食堂やアフターケアにおける食支援は、概ね予定どおり実施することができた。また、フードバンクからの支援物資を他機関へ配布するなど、地域支援にも寄与した	B（良好）	インケア、アフターケアともに概ね予定通り実施できていた。地域になじむ施設づくりに、利用者につながる地域住民との関係作りに努めている。
	維持管理 □ 施設、設備の保守管理（点検・修繕）を計画的に実施したか。 □ 修繕が必要な箇所について、適切に対応したか。 □ 日常の清掃、保安、警備は適切に実施しているか。 □ 備品台帳に基づき備品を管理、修繕したか。 □ 植栽、樹木等の維持管理を定期的に実施し、美観が保たれていたか。	仕様書、備品台帳、点検結果、委託契約書、実地調査	B（良好）	修繕は優先順位をつけて行っているが、老朽化が進み、居室設備の不具合が相次いでいる。今年度は初めて財団助成を活用して修繕を行った。	B（良好）	設備の老朽化が進み、給湯器やレンジフードなどの修繕が必要となり修繕費がかさんでいるが、民間団体の助成金を活用しながら、適切に対応している。
	情報提供 □ 施設案内、事業の開催案内等のパンフレット類を整備し、情報発信に努めていたか。 □ ホームページ等の管理及び更新は適切に行っているか	パンフレット・ホームページ等、実地調査	B（良好）	法人ホームページに掲載して、周知を図っている。	B（良好）	法人のホームページを利用。DV対策として、直接連絡先が分からないように工夫しており、施設に問い合わせがあった際は、リーフレットを送付するなど情報提供を行っている。
	環境配慮 □ 省資源、省エネルギー等環境への配慮、リサイクル等の推進等に努めていたか。	関係書類、実地調査	B（良好）	会議資料はペーパーレスに取り組んでいる。	B（良好）	会議等で資料のペーパーレス化を図るなど、出来る限り省資源化に努めている。
	意見・要望・苦情 □ 意見・要望・苦情等を把握する仕組みを確立しているか。 □ 要望・苦情等の対応に迅速かつ適切に対応し、可能なものは管理運営に反映していたか。	事業計画書、事業報告書、日報、アンケート	B（良好）	苦情解決の仕組みについて、利用者が理解しやすいよう掲示板を活用し周知を図っている	B（良好）	把握する仕組みは、確立している。居室環境などの要望（修繕）にも迅速に取り組み、場合によっては市と協議し対応している。
	利用者のニーズ把握 □ 母及び児童の満足度やニーズを積極的に把握し、結果を反映する仕組みを確立しているか。	事業計画書、アンケート、実地調査	B（良好）	アンケートおよび面談を実施するとともに、ケース会議の開催回数を月2回に増やし、利用者のニーズに応じた支援の充実を図っている	B（良好）	支援計画作成の過程で、利用者にアンケートを実施。また、こども会や母親会などを組織し、要望や意見を引き出しやすい環境を提供。（一般的な利用者アンケートには馴染まない）
	《Ⅱ総　括》　業務の内容・水準に関する評価　【標準11項目／当施設9項目】		**B（良好）**		**B（良好）**	

指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

Ⅲ収支等	**経理事務** □ 専用口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行ったか □ 経理区分を設け、指定管理料を適正に執行していたか □ 料金徴収、減免、還付の手続きは適切に処理していたか。	預金通帳、出納帳、利用申請書・減免申請書等、実地調査（金庫等）	B（良好）	適正	B（良好）	適正に処理している
	収支状況 □ 収支状況が対前年度比及び当初の目標を達成しているか。	事業計画書、事業報告書	B（良好）	適正	B（良好）	適正
	経費節減の取組 □ 経費削減に向けた取り組みを積極的に実施し、その効果が上がったか。 □ 清掃、警備、保守点検、修繕等の第三者への委託が適切な水準、内容で実施されたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、委託契約書、実地調査	B（良好）	適正	B（良好）	適正
	《Ⅲ総　括》　経費の収支等に関する評価 【標準3項目／当施設3項目】		B（良好）		B（良好）	
Ⅳその他（独自の取組等）	**その他** □ 地域の子育て課題に係る取り組みを行ったか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、実地調査	B（良好）	アフターケア、地域子育て支援拠点での心理支援を丁寧に行っている	B（良好）	行っている
	《Ⅳ総　括》　その他に関する評価 【当施設1項目】		B（良好）		B（良好）	

主な成果（全体）

使用料（利用料）	目標	円	⇒	実績	円
稼働率	目標	%	⇒	実績	%
利用者数	目標	人	⇒	実績	人

【指定管理者コメント】

指定管理受託から15年目、令和7(2025)年度は4度目の更新（5年間）の4年目となる。4月当初7世帯22人でスタートしたが、上半期に2世帯入所、1世帯退所、下半期は1世帯入所、1世帯が退所した。最終8世帯26人で年度末を迎えた。年間を通しての入居世帯数は、延べ91世帯で前年度比13世帯減、入所者数は285人で前年度比28人減。1カ月の平均世帯数は7.6世帯で、認可定員15世帯における充足率は約50.6%で、前年度（8.6世帯/月、充足率57.3%）と比べ、非常に減少した。本年度は、支援の質の向上と安定的な施設運営を目的に、業務体制の整理、記録様式の見直し、人材育成の強化に取り組んだ。引き続き、人材確保や受入体制の課題改善を図りながら、持続可能な運営体制の構築を進めていきたい。

【施設所管課コメント】

今年度、認可定員15世帯における充足率は50.6%であり、年度末入居者数は前年比1世帯増ではあったものの、年間を通じて入居帯数の減少は、大きな課題と捉えています。施設の性格上、積極的に利用の宣伝を行うことの難しさや、保育園の待機児童の問題など外的要因による入居に至らなかった例もありましたが、利用を希望する方や福祉事務所の要望に応えられる施設づくりに向けて、職員が専門性を発揮し自信をもって支援に臨めるよう、研修による職員の資質の向上及び、関係機関との連携強化によりチームケアの確立に努めていただき、充実した支援を行っていただけるよう期待します。

自主事業実施による成果

＜主な自主事業の実施状況＞

事業名	指定自主事業・自主事業の別	事業内容	実施状況（実施・追加・未実施）	特記事項（「未実施」の場合はその理由）
地域支援／子育て支援（ひまわり会）事業	指定自主事業	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾙｰﾑひまわりの活動を退所後も行い、地域生活以降後のｱﾌﾀｰｹｱ充実を図る。各種行事を企画、実施する。	実施	延べ248人 カウンセリング/58人・プレイセラピー/111人 ひまわり面談/14人・ひまわり会/65人
実習受入事業	自主事業	保育士養成学校の学生の保育実習の場を提供し、積極的に実習生の受け入れを行う。	実施	27名実施 京都橘大学（児童教育）/10人・（心理士）/4人 池坊短大（幼児保育）/1名・佛教大学（幼児教育）/4名 大阪国際短大（幼児保育）/4名・滋賀短期大学（幼児教育保育）/4名
自動販売機の管理業務	自主事業	自動販売機の設置	実施	１台
ヨガ体験	指定自主事業	ﾖｶﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格を取得している職員を中心に、母（子どもも参加可）に向け、約1時間半、ﾖｶﾞ体験の場を提供している。呼吸法による心身のリフレッシュとともに、特にDVによる被害者に対してのケアとして、ﾖｶﾞ＝認知行動療法を通してｱﾌﾟﾛｰﾁしていく。	実施	延べ7名 ・ 見学1名 ※Ｉ期はニーズの減少と入居者の体調不良や日程が合わずに未実施 10/25：3名 ・ 見学1名、11/29：2名、2/3：1名、2/22：1名
夕食サービス事業	指定自主事業	入居者の調理負担軽減などを目的とし、食事の提供を行い、夕食サービス事業の実施を検討する。毎月1回程度	実施	しらゆり食堂（ランチ会含む）/15回 ひまわりランチ会（こどものみ）/3回 おにぎり会/26回（夏休み期間中） クッキング/1回
フードバンク食材分配	指定自主事業	フードバンクから提供いただいた食材を退所された人にも分配し、退所後の様子を確認し、必要に応じ対応してアフターケアにつなげている。	実施	フードバンク滋賀/49回・セカンドハーベスト京都/27回・王将フードサービス/10回・その他/10回

【指定管理者コメント】

実習生の受入れについては、学生数の減少や学校の閉学等の影響により、年度当初の予定人数を大幅に下回る結果となった。一方で、新たに心理士実習の受入れを開始し、次世代の福祉職・心理職の担い手育成に寄与した。また、物価高騰や食料品価格の上昇（特に米不足）の影響により、下半期はフードバンク滋賀からの寄贈が大幅に減少した。そのような中でも、財団助成等を活用し、地域の母子家庭への食支援の充実に努めた。しらゆり食堂については好評で、入居者からも楽しみにする声が聞かれている。集団での食事を望まない世帯には、居室で食事ができるようデリバリー方式を導入し、個別対応を行うことで、安心して家族の時間を過ごせるよう配慮している。

【施設所管課コメント】

保育養成校の学生に対する保育実習生の受入について、当初予定より下回る結果となったものの、新たに心理士実習の受入を開始することで、次世代の福祉職・心理職の担い手の育成に注力されたことは、今後の施設の支援のあり方を考える上でも施設の強みを活かした取り組みであると感じます。自主事業を通じて、入居者１人ひとりが地域社会とのつながりや、入所者同士の結びつきを深め、自立に向けた意識付けや、地域での生活を視野に入れた自主活動をグループワークを通じて育くんでいけるよう、今後も利用者ニーズに応え、創意工夫しながら、取り組みを継続してください。

指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

課題及び課題解決の結果	**【指定管理者コメント】** 今年度は、利用者ニーズの多様化・複雑化に対応するため、支援体制の見直しや業務の標準化を進めるとともに、安定した人員確保に努め、継続的な支援体制の維持を図った。また、食支援や地域支援活動の充実、関係機関との連携強化にも取り組み、施設機能の充実につなげることができた。今後も母子の安全確保と自立支援を基盤とし、地域に求められる施設運営に努めていきたい
	【施設所管課コメント】 利用者ニーズの多様化・複雑化に対応するため、支援体制の見直しや人材確保に取組み、様々な問題を抱える母子に対して、継続的かつ安定した支援体制の構築に努めたことは評価できます。自主事業において、入退所者への食支援や、各種行事を開催し、入所者の母と子がともに社会活動へ参加することで、入所者同士、職員、地域社会とのつながりが深まり、母の孤立の防止や、こどもたちの健やかな成長に寄与していると認められます。 今後も、母子の安全確保を最優先としながら、入居者１人ひとりの状況に応じた、きめ細やかな自立支援を推進するとともに、多様なニーズに応えられるよう、丁寧なアセスメントと自立支援計画においてはPDCAサイクルを徹底し、更なる職員の知識・技術の向上に努めるとともに、地域に求められる施設運営に努めてください。
特記事項等	

※評価基準：項目別評価、《総括》、総合評価の評価基準（A～D）は、モニタリングチェックシートと同様とする。

※評価手順：